

京都文教大生による宇治商工会議所会員企業・団体紹介〔第27回〕 ～社会人0年生の私たちが見つけた企業と地域の魅力～

2024年 **12**

学生広報チーム × 株式会社洛タイ新報

「地域の絆」を作るため・守るための情報発信にかける思い

現役の大学生として、大学の魅力を発信し、地域の課題解決活動にも取り組む「学生広報チーム」が、地域紙としてここにしかない情報を発信し続ける「株式会社洛タイ新報さん」取材しました。

【時代のニーズと共に変化し続ける洛タイ新報】

2018年10月2日統合発刊の洛タイ新報、その前身は洛南タイムス社および城南新報でした。昭和の宇治は、工場の町、労働者の町と言われ、労働組合の活動も盛んで、市民の政治への関心も高かったそうです。この時代において、洛南タイムスが革新的スタイルで、城南新報は保守スタイルで地域の情報を発信し絶大な支持を得ていました。

時代の変化と共に、2社がそれぞれの立場から情報を発信するスタイルから、より力強く地域の情報を発信するため2社を1社に経営統合し、地域愛に溢れた情報を発信するスタイルを選択され、洛タイ新報が誕生しました。地域と共に歩みを進める洛タイ新報は、シニア世代や子育て世代を中心に、幅広い世代から愛され続けています。

【日刊地域紙としての役割や使命】

この度、取材にご対応頂いた長田代表取締役は、地域紙として存在感を保つための工夫や困難をお教え下さいました。「朝、新聞を読んで、なんとなく地域の情報に目を通してもらうことによってコミュニティが広がっていく」と話されたことが印象深く、日刊紙として毎日地域の情報を発信し続ける洛タイ新報の姿勢があってこそその言葉であると感じたからだと思えます。洛タイ新報では、地域住民のため、地域の治安維持のため、地域と関係の深い政治情報を発信されています。また、地域で開催されるスポーツ大会等のイベントや、そこに参加される方を記事にされるなど、地域コミュニティや地域住民のシビックプライド醸成に寄与されています。私たちはこの取材を通して長田代表取締役が地域とのコミュニケーションを大切にされ、愛されていることを感じることができました。



↑ 紙面を見ながらのインタビュー

【これからも地域とつながり続ける洛タイ新報】

長田代表取締役はこれからの洛タイ新報の展望を伺いました。「洛タイ新報の発行エリアである、宇治市、城陽市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町の6市町で生まれ育った市民住民が地元を愛し、地元で根付いて欲しい、いったん離れたとしても地元を愛し戻ってくる方を増やしたい、そのために情報を発信し続ける」と語ってくださり、地域に根ざした企業としての責任感と誇りを感じました。私たち学生広報チームも、大学の魅力を発信する立場として、行動や発言に責任を持ち、誇りを持てるようになりたいと思いました。また、そのような姿勢で取材することによって、新しい出会いが生まれ、地域とのつながりも生まれるのではないかと感じました。



↑ 作業場の見学

洛タイ新報では探偵ナイトスクープのような「こんなこと調べてほしい!」という声を集めて、記事にされているそうです。皆さまも「こんなこと調べてほしい!」という声をぜひ洛タイ新報に送ってみてください。もしかすると新しい発見があるかもしれません!ぜひ皆さまも洛タイ新報とつながりをもってみてください。

【今回の取材先】

株式会社洛タイ新報



洛南タイムス社と城南新報が、2018年9月6日に経営統合し、洛タイ新報が誕生しました。前身となる洛南タイムス社は1946年12月創刊、城南新報は1969年12月創刊。発行エリアは宇治市、城陽市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町の6市町です。朝刊のみの発行で、体裁はタブロイド判の8ページ建てとなっており、「洛タイ」の愛称で親しまれています。

【今回の取材担当】

学生広報チーム

京都文教大学入試広報課直属の学生団体。高校生などに向けて京都文教大学の魅力を全力で発信する団体。地域の課題を解決する活動にも、企業や行政と共に、精力的に取り組んでいる。総勢47人で活動中。



今回取材、記事作成を担当した学生と長田代表取締役。
左から大谷 愛さん(臨床心理学部2年次生)、樋口 紗来さん(臨床心理学部1年次生)